

第10回月例会

第10回月例会は、国立民族学博物館開館40周年記念特別展「ビーズ—つなぐ・かざる・みせる」に関連して、公開研究会「北東アジアのガラス玉の道—アイヌのタマサイを中心に」
として、平成29年3月25日14:00～16:50に開催いたしました。発表者とコメンテーター4名、館内7名（うち総研大学院生3名）と一般参加者19名を合わせて30名の参加をいただきました。

本拠点代表の池谷和信教授による趣旨説明の後、ガラス玉の材質の特徴やその変遷、道外との関係性の再検討を論じた高橋美鈴先生（様似町教育委員会・学芸員）による「北海道におけるガラス材質の変遷」、文献と出土遺物からシトキの成立について論じた越田賢一郎先生（札幌国際大学 縄文世界遺産研究室・室長）による「北海道出土のガラス玉（アイヌ文化；中世相当期）—アイヌ文化期（中世相当期）におけるシトキの成立—」、ガラス玉に関する歴史史料から道外、特に大陸とのつながりを論じた中村和之先生（函館工業高等専門学校・教授）による「北方世界のガラス玉の流通について」の3つのご発表と、大塚和義先生（大阪学院大学・教授／国立民族学博物館・名誉教授）によるコメントをいただきました。

討論ではガラス玉やそれを通して見たアイヌ世界と北東アジアのつながりに関する議論のほか、一般の方からも質問も寄せられ、

